

岐阜県農業技術センターニュース No.19

カキ果実の食べ頃を明らかにする！ (野菜・果樹部)

カキの食味に係る主な要因は、甘さ、果実硬度および食感などです。糖度では、選果場における内部品質センサー導入、小売店における糖度表示など、生産および販売面での取り組みが行われています。一方、果実硬度や食感については、まだ取り組みが行われていない状況です。特に果実硬度は収穫後大きく変化すること、また嗜好に個人差や地域差があることなどから、その評価を行うことは極めて重要です。そこで、当センターでは、収穫後の‘富有’における果実硬度を非破壊法で経時的に測定することによって、食べ頃を明らかにし、食べ頃予測式、簡易食べ頃指標(案)を作成しました。



非破壊法による果実硬度の測定

‘富有’ 食べ頃指標(案)



※室温下に保存

害虫の増殖に関与する土壌内の微生物相 (生物機能研究部)



ハウレンソウケナガコナダニによる被害葉(凹凸部分)

県内のハウレンソウ栽培圃場では、ハウレンソウケナガコナダニによる被害が甚大になっています。この害虫は微小で薬剤効果が低いことから防除が極めて難しく、また、明確な増殖要因も明らかにされていません。そこで、コナダニの餌となる土壌中の糸状菌相や有機物を調査し、「食性」の面から増殖要因の解明を進めています。これにより、増殖を抑制する土壌内微生物相を明らかにし、生物多様性の観点から、本害虫に対する環境保全型防除体系の確立を目指しています。

東海4県の農業系研究機関が研究協力協定を結びました

11月18日に、東海4県(静岡・愛知・岐阜・三重)の連携を深め、効率的な技術開発や人材育成を図るための協定を締結しました。名古屋市で調印式が行われ、農業技術センター・中山間農業研究所を含めた5研究機関の代表者が協定書を取り交わしました。今後は、地域を越えて解決すべき課題について、各県が協力・連携しながら技術開発を進めていきます。



キスジノミハムシ対策は雑草防除から

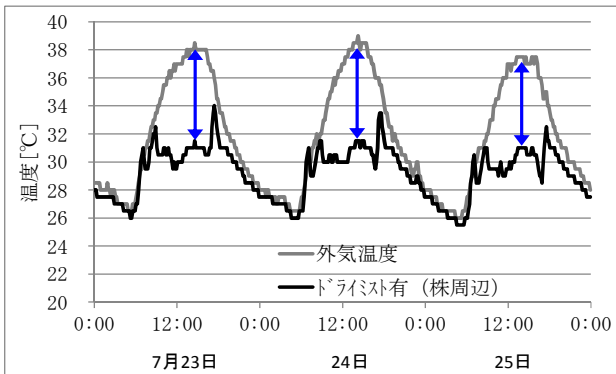
(環境部)

近年、夏ダイコン産地で、キスジノミハムシによる根部被害が問題となっています。発生実態を調査した結果、被害が多い圃場周辺には、キスジノミハムシが繁殖する外来種のアブラナ科雑草(キレハイヌガラシ)が群落を形成していました。本雑草は非常に増殖力が強く、植物の断片からも再生します。しかし、根まで枯らす除草剤を散布することで駆除ができ、発生密度を低下させることができました。また、キスジノミハムシは栽培期間中に継続的に発生することもわかりましたので、今後は効率的な体系防除と組み合わせることで、被害の抑制が期待できます。



発生源のキレハイヌガラシ群落

ドライミストと根圏冷却栽培システムによる高温対策 (花き部)



ドライミストと根圏冷却システムによる冷房効果(H22年)

切バラにおいて、夏期の高温対策として、改良型高圧細霧冷房である超微粒ミスト(ドライミスト)と、不織布で培地を覆い、気化熱を利用して根圏を冷却する栽培ベンチ(根圏冷却栽培システム)を組合せた降温効果を検討しました。ドライミストは、パッド&ファン冷房と同等以上の冷却効果を持ち、外気温より6°C以上降温できました。また、ドライミストの停止時間帯である夜間は、根圏冷却栽培システムの気化熱効果により、培地周辺の温度を下げる効果があります。

肥効評価法で「日本土壌肥料学会技術賞」を受賞！

「家畜ふん堆肥の窒素の形態解析に基づく実用的肥効評価法の開発」に対して、当センター棚橋寿彦主任専門研究員に第16回(2011年度)日本土壌肥料学会技術賞が贈られました。授賞式は8月9日につくば国際会議場で開催され、授賞内容についての記念講演も行いました。本技術に関しては、「岐阜県堆肥供給者リスト」の作成など、普及への取組みも進んでいます。



☆平成23年度成果検討会を開催します

詳細はホームページをご覧ください。

日時：平成24年2月23日(木) 13時～
場所：農業技術センター講堂

岐阜県農業技術センター

〒501-1152 岐阜市又丸729-1

Tel 058(239)3131

<http://www.cc.rd.pref.gifu.jp/g-agri/index.html>

南濃試験地

〒503-0651 海津市平原1165

Tel 0584(53)0175

池田試験地

〒503-2407 揖斐郡池田町般若畑631-11 Tel 0585(45)3837